

平成27年度第3回調布市男女共同参画推進センター運営委員会  
議事録要旨

日時 平成27年12月15日（火）午後6時30分～午後8時30分

場所 市民プラザあくろす3階 研修室3

出席者（敬称略 50音順）12人

市古委員，宇治委員，熊崎委員，小森委員，菅野委員，高橋委員，  
田村委員，内藤委員，仁藤委員

オブザーバー

高木センター長（市民活動支援センター），山岸係長（総合防災安全課防  
災係），田口香子氏（株式会社地域計画連合）

事務局 内田，塚原

1 開会

2 提言書（修正案）について

事務局より前回提言書案との変更点を説明

3 全体討論

(1) 災害時における市民プラザあくろす（スペース）の活用について

- あくろす以外で24時間使えない場所があるか確認いただきたい。あくろすが非常時に使えないことについて交渉の過程で市側に問題がなかったか。この2階3階の責任者の方は、あくろすを是非使ってほしいと言うべき。市民の中にあくろすが使えないと思っている人はほとんどいない。
- 民間での場所の確保，定食屋・居酒屋等フランチャイズ方式の店との話し合いはどのように進めているか。

（総合防災安全課）

・資料に記載のある施設以外，基本的には福祉施設以外は声がけしていない。避難所の指定管理に対する責任は市にあるが，怪我や事故があった場合の責任は民法上その施設の所有者になる。今の段階でその

ような条件での協定締結については慎重な判断を要する。ボランティアで来られる方等トータルで宿泊所を用意することを勘案し今後検討する話だと思う。ただ、ご提案自体は検討させていただく。

- まずスペースが最優先だと思う。契約内容の話合いを進める等の動きはあるか。

(総合防災安全課)

- ・ 災害救助法の中で避難所は原則7日間となっていることから、基本的に協定の締結は7日を原則として延長の場合は協議する。避難所の確保も重要だが、都内で被災している中で、調布市の中だけで避難者を想定し調整することは現実的に難しい。被災者が被災生活から戻ることが最優先すべきである。例えば学校で授業が再開できないという事態も考えられる。避難者のことはもちろん考えなければいけないが、避難所を必ずしも最優先させて避難所として使い続けることが、復興にあたり必ずしも全市民にとっていいわけではないと思っている。都外へ避難者受入れの努力をする、調布市の被害があまりなければ他の住民の受入れを検討する等、日本全国で助け合う必要がある。
- 大きな災害があったときには、民間利用を検討していなくても、例えば歯科医院が自分の駐車場を解放するなど、いざとなれば協力するのが実態。それを事前に協定締結できるかという問題は、可能性としてはあると思うが、現実には難しい。民間の高層の分譲マンションを避難場所にと地元の自治会と管理組合が協定を結ぶ例もあるが、地域でできることは地域でという中で展開している。

駅前滞留の問題では、まずは公的な施設、それから百貨店やホテルで協定を結んでいるが、それ以外のところは実際には難しい。地域防災計画や協定を結べなくても、災害時の話をして施設をマネジメントしている人が一緒になって考えていくことが大事と思う。

- あくろすの活用についてどこかにいれてもいい。
- 私も施設を管理する者として是非入れた方がいいと思う。
- あくろすの活用についてというように、施設名を出す方がいいか。そ

れとも、公共施設としてという一般的な言い方がいいか。

- この提言をお知らせしていくので分かりやすい方がいい。
  - 「公共施設であることから、受け入れスペースとして弾力的に運用される必要がある」とした方がいい。「受け入れをしないとしても、体の不自由な方など特定の人に特化した」というのは、「弾力的に」という言葉に様々な意味が含まれると思うので、なくてもいい。
  - あくろすが受け入れるということを明記しない方がいい。
  - 「公共施設であることから」というのを抜き、「一般的な人々の受け入れをしないとしても」の方がいい。公共施設は誰もが使えるところというイメージがあるので、あくろすを出すのはいいとしても公共施設はない方がいい。
  - 誰が読んでもわかりやすい表現の方がいい。
  - 避難所としてただ受け入れるというより、男女共同参画推進センターや市民活動支援センターを早く機能させ、相談窓口等を早くオープンしたい。そういう場として、市民プラザあくろすが開かれるようになることはいいと思う。4の暴力被害を含む様々な相談に対応できる体制を整えるという記載に加え、この場も使いたい、男女センターが動き出せるような場がほしいという表現をするといい。
- ⇒ ・ 「避難所」と書くよりもその方が良い。
- ・ わざわざ提言書に書かなくてもできる。
  - 4番に「緊急収容も含めた発災直後の対応」とあり、ここを開けるかもしれないという意味もあるから、ここまで細かに書かなくてもいい。避難所を次から次へ開けると逆に対応ができない。例えば学校でも、最初から全て開けるとなると、授業を再開する時に支障が起きる場合がある。
  - 市民の立場で提言するから努力でなくやってほしいという表記もいい。
  - 東日本大震災時、この施設は3月いっぱい閉館だった。そうならないようにしたい。
  - 体の不自由な方の一時的な滞在など弾力的な運用を図りたい等、表

現を考えるといい。

- 資料ワークショップ中の発災～3日で発生する事象で、DV被害で身を隠している人についてある。ここにDVする夫がくることもあり得る。入り口で、誰かを確認できるのであれば、それも含めたらどうか。
- 体の不自由な方の一時滞在やDV被害者の方の緊急居場所、緊急収容という表現を入れた方がいい。

(2) 前回提言案から今回案にあたり削除された「様々な事例」について

- 前回、具体的事例がほしいという話があった。特にLGBTはどういうことができるのかわからない。事例を付けた方がいい。

(オブザーバー)

東北の事例で、LGBTの方が特にお風呂やトイレに困ったという報告がある。提言では、平常時はセンターで実施している入門講座のようなものを続ける。災害時は、トイレ・お風呂の配慮について、提案2番にある地域リーダーの育成などの中で学ぶ等、避難所に対して周知するとしてはどうか。

⇒・3の性的マイノリティーとLGBTをほぼ同義と考えると、原案にも文言はある。わかりやすくする工夫として用語解説を入れるのはどうか。

・トイレ・お風呂という言葉が3番に「・・・などの日常生活に配慮が必要です」と入れるのはどうか。

- 内閣府の事例はわかりやすくイメージしやすい。ワークショップは話し合った貴重な意見であるが、見た人がわかるか疑問に思う。基本的な内閣府の事例があって、更に調布ではワークショップを加えたとする方が、初見の方もわかりやすい。

- 提言のページ数に制限はあるのか

⇒・制限はないが、見やすい方がいいと思う。

- 「様々な事例」は個々の提言に対応しているか。

⇒・対応していない。関連するものをピックアップしている。入れるとなれば、さらに精査が必要。

### (3) 付帯意見のLGBTについて

- 3番には性的マイノリティとある。これとは別にLGBTを付帯意見の一つの大きなトピックとして取り上げるか。

- 付帯決議は、とても弱い意味で使われるのではないか。

⇒・委員会でどうしても一致しない時に付けることがある。付帯意見として色々なところで何回も出すことに意味がある。

- ・男女平等の視点からの防災に関する付帯意見など、そういう表現にしておかないと訳がわからなくなる。付帯意見となると、センターの役割としての付帯意見と読めてしまうので、別次元ということがわかるようにしておかないといけない。

- 3点を付帯意見として入れることでよいか。

- 性的マイノリティについてカミングアウトしたことが原因で、避難所で差別が起こった時にセンターでは対応できるのか。何ができるかシミュレーションが必要だと思う。

⇒・市の性的マイノリティの所管が男女センターと決まっているわけではない。男女センターとしては多様な性という視点でパネル展や講座を開催している。平和の問題と同じように、各所で意識を啓発することは必要だと思う。男女センターとして相談があった時にどうするか議論し準備しておくことは必要と思う。

### (4) 付帯意見の物流について

- 物流について提言で出す必要があるのか。

⇒・専門的な知識を持たない者が一生懸命やるよりもはるかにスムーズと多数報告されている。問題提起のために必要と思う。

- ・この提言は、男女共同参画推進センターの内容で、物流の話は付帯意見という問題ではなく、本流の総合防災に直接関わる場所だと思う。ここではないという気がしている。

- 物流に関して、どう書いたら実効性があるのか。

(総合防災安全課)

東京トラック協会とは輸送業務に関して提携している。こうしてくだ

さいと申し上げることはできない。いずれにしても考えていく。その手法として何がいいかということについては申し上げようがない。

(オブザーバー)

男女共同参画の視点から物流を考えると、女性用下着や生理用品もあったが、それを女性が手に取れなかったという、末端の避難所・生活の場での物流、届いていたが届かなかったということ等の提言の方がこれまでの議論に近いと思う。

- 物流という表現が気になる。専門的な業者は、避難所でもヤマト便とか日本通運は宛名さえあれば届く。むしろ全国で一律のサービスを少しでも早く復旧してもらおう方が、平等なサービスで、それを調布にだけというのは公平性の観点から難しいところがある。
- 届いた物資を管理、保管、確実に届いたという確認作業は、物流の専門的な人であればより効率的にできると思う。ヤマト運輸では、何かあった時には会社の中で100人はいつでもどこでも派遣できるようにしてあるとのこと。
- 盛岡女性センターでは、たくさん来た物資をどのように分けるか困ってしまい、頼んで人に来てもらい分けてもらった。せっかくあっても宝の持ち腐れとなるのは簡単に想像がつく。
- ボランティアとして、ノウハウを持った人の登録を受けるというのはどうか。

(市民活動支援センター)

登録を受けても避難所の数が多い。おそらく支援物資は各行政単位ごとに災害ボランティアセンターや各行政の窓口が届いて、そこで仕分けて分配をする。更に避難所でも物資の集積場所があって、そこで初めて個別に分けることになるので、どれだけプロフェッショナルがいるとしても絶対数は足りない。実際にはそれを配っている方は学生やボランティアが大多数。避難所によって人数、男女比、子ども・大人の数よっても物資の配分が違う。最初はおそらく均一に配分していき、そこから数を把握できた段階で段々差をつける。実際物が来るのかも

わからない。男女共同参画の視点で考えれば、避難所で女性が下着、生理用品を取りにくかったということはあってはいけないと思う。そういうものがきちんと各部署に届けられるような物流という部分は、調布市の総合防災計画の中の問題と考える。

- 物流のような本流に関わることでこの提言で出すのか、男女共同参画について絞って出すのか。色々なところで言っていないと変わらないから少しでいいので載せるということならこのままでいいと思うが、避難所運営の根本に関わることはここで話ができることではない。個人的には絞りきれないから止めた方がいい。

⇒ ・私もタイトルと合わせる方がいい。ここだけは確実に処理 したいというところを載せた方がいいと思う。

・物流についてだけがあると、絞りきれず難しい。せっかく書いても、私たちの思いが伝わらなければ書かない方がいい。でもここに言葉があれば、関わってきた私たちが口で伝えることもできる。どちらがいいかわからない。必要な物資が必要な人に届くことは必要。事例の9番を書いたらどうか。

・ヤマト便では、非常時には派遣された方が来て、やることがホームページを見ればある。

・物流という言葉ではなくロジスティクスの方がいいと思う。

・付帯意見という括りに入れておけば様々なところで触れられる可能性はあると思うので、このまま残しておいていいと思う。

- 基本的に物資に依存しない方がいい。自立自助を前提として、必要な人と必要な物をマッチングさせるというニーズ把握のところで、「男女平等の視点で物資をマッチングさせるルートを作る」という表現がいい。
- 「物流」という言葉をやめて、必要な物が必要な人に届くような仕組みを整えるという表現はどうか。
- 専門業者を使うのであれば、契約をしてお金を払うというスキームを作らないとプロにならない。

⇒予算が必要になると思うから強く書いた方がいいと思う。

- 3番の在宅避難のニーズについて男女共同参画推進センターでどのように把握するのか、できるのか。
- 必要な物資を必要な人に届くようにという点が一番重要。5の個々の回復力・主体性を活かした生活再建支援で、「ニーズの違いにきめ細かく対応できるようにする」に加えるといい。専門的な業者について、2番の地域リーダー、ボランティアを志す人材を育成するというあたりを充実させることで、専門的な業者でなくてもノウハウを教えたただき地区協等でもできるようになると思った。
- 地区協議会の中で、物流の仕事をしている方はいるか。

⇒・専門職の方はいないと思う。

- 「物流について」というタイトルは変えた方がいいと思う。ミスマッチというのが一番根本的な原因だと思うので、「支援物資のマッチングについて」というのが落としどころと思う。
- 必要な物資が必要な人に届くように、物流についてノウハウをもった人による物資の受入れ、分配が行われるようにする必要がある、考えられたいという表現はどうか。

#### 4 今後について

事務局よりスケジュールを説明

#### 5 閉会

##### 【配付資料】

資料1 提言書（修正案）

資料2 提言書に添付する資料（案）

資料3 災害時における二次避難所・一時収容可能施設一覧

資料4 今後のスケジュール